

地域懇談会実施報告書

自治会名 堀六日町自治会

開催日 11月6日(火)

時間 19:00 ~ 21:05

開催場所 堀六日町公民館

参加人数 21人

懇談内容 別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

舞台の市有形文化財への指定について

対応



行政側参加者氏名

庶務課 酒井 富雄

庶務課秘書担当 西山 賢治

記録者氏名

庶務課行政管理担当 飯島 秀美

掘六日町自治会地域懇談会会議録

平成 19 年 11 月 6 日 19:00～

1. 自治会長あいさつ 高木自治会長

2. 市長あいさつ

(1) 地域懇談会の趣旨について

財政資金の豊かなころは、財政力で課題の解決ができていた。しかし近年、市民の皆さんのニーズも多様化し、ご意見を聞きながら知恵を絞り、工夫しながら優先順位をつけて事業を実施していかなければならない。

また、行政は知識や経験を積み重ねて、問題解決の方法を蓄積して持っていた。しかし、市民の皆さんの価値観も多様化し、要望もさらに高度になっており、行政だけでは解決できなくなっている。市民の皆さんに市政に参加していただき「協働」により、より良い成果を導いていかなければならない。そのため、地域にお邪魔し、事業の取り組み状況等を説明しながら、ご意見・ご提言等をいただいている。地域懇談会は、連合自治会の事業として 6 月からスタートし、今回が 23 回目の開催となる。合同開催もあるので、40 地区の自治会で開催されてきている。

(2) 第 4 次総合計画について(ダイジェスト版により説明)

5P 基本理念、将来像、経営像

8P めざすまちのテーマ「6本の柱」

(省略)

3. 懇談開始 【19:15】

出席者

大町病院の現状と今後についてお聞きしたい。

市長回答

昨年の市長就任後、大町病院の評判が悪いとのご意見を大勢の方からいただいております。大町病院のスタッフと改善に向けて意見交換を実施してきている。風評に惑わされることなく、具体的な問題点等ご意見をお寄せいただきたい。病院の建て直し、信頼回復に努め、地域医療の核となるように、できることから実施していきたい。

今年の 4 月より地方公営企業法の全部適用により、経営・医療面の健全な運営のため事業管理者を設置するようになっている。まだ選任されていないが来年の 4 月には就任の目途が立ちそうである。そうなれば、健全な病院経営の管理体制が確立されるようになる。

大町病院には現在 20 人の常勤医師が診療を担っており、内科の医師は 5 人勤務している。そのうち 2 人が今年度末までに退職する意向を示している。慰留につとめているが引き止めることは難しい状況であり、平行して後任を探している。内科の医師は 3 人になってしまう。今までは信大医学部より人事のローテーションとして医師が配置されてきた。しかし、全国的な医師不足から、すぐ後任を送りだすには難しい環境になっている。信大では毎年 80 名の医師が誕生し、関連病院で研修を兼ねて配置されていた。医師研修制度が変わりどこの病院でも研修が可能になったため、約半分の医師が都市圏の病院で研修するようになってしまったという。今、信大のほか、地域出身の医師を探し直接お願いしているが、年度中途であり、すぐに後任は見つからない。来年 4 月までには何とか後任を探したい。1 月から 3 月までの当面の間、3 人の医師で内科を運営しなければならないため、入院は病床数を 65 床から 30 床に減らし、入院以外の場合は市内の開業医へお願いするなど、大北医師会・安曇病院へ出来るだけ引き受けてもらうようお願いしている。一日でも早く後任を見つけ、体制を元に戻し、ご迷惑をお掛けしないように努力していくのでご理解をいただきたい。

出席者

町内でも自治会の未加入者が増えているが、行政や自治会での負担や未加入者対策はどうか。

市長回答

自治会活動は昔からの「協働」事業の主流であり、より良い地域づくりのために、自治会に加入して自治会活動を担っていただきたいと思う。今年 9 月の状況では、全世帯のうち 76%、約 3 / 4 の世帯が自治会に加入している。しかし 1 / 4 は未加入という状況である。連合自治会では自治会加入を推進しており、毎年 6 月を「自治会未加入者加入促進強調月間」として取り組みを強化している。大町市へ転入された方に市民課窓口で加入促進パンフレットを配布し、加入を積極的に呼びかけている。しかし自治会への加入は強制ができない。「自治会の意義」をご理解いただき、地域の課題を協働して解決していただくために、是非自治会へ加入していただきたい。根気強く加入促進に努めてまいりたい。

出席者

少子高齢化で、行政と高齢化する自治会との連携の具体的な対策は講じているのか。

市長回答

市の人口全体が高齢化する中で、自治会活動を担う方々も高齢化している。自治

会役員も当番制でまわるなど、高齢の方には負担が大きく、なかなか引受けにくい状態となっている。自治会内部でも役割分担をおこない、連携をとっていただきたい。行政でも自治会活動を支援してまいりたい。

出席者

今年暴力団による殺人事件が発覚したが、市内の暴力団の実態はどうか、また暴力団への対策はどうか。

市長回答

警察によると県下全体では山口組系暴力団 1,000 人、また市内には山口組系暴力団が一団体、構成員は若干名と聞いている。事件以来活動は停滞している。暴力団というのは、ひとつの組がなくなると隙間を埋めるように別の暴力団が介入してくるといわれている。警察では別の団体の介入を防ぐよう努めている。また、警察では暴力団とトラブルがあった場合、泣き寝入りしてはいけない、必ず警察に届けでるように指導している。市でも毎年夏に暴力追放市民大会を開催し、啓発に努めている。

また不審者対策等の問題もあり、防犯協会ではパトロールを実施、また市でも児童の下校時にあわせ青色パトロールでの巡回を行い、被害防止に努めている。

出席者

鷹狩山や農具川が開発されているが、環境破壊や植生への影響はどうか、またそのことについて専門家から指導は受けているか。

市長回答

東山から見る市街地や北アルプスは絶景。鷹狩山は八坂側、大町側とも整備が進められ、県外からも大勢の観光客が訪れている。その中で、貴重な動植物等への影響は特に聞いていないが、何か問題等があれば教えていただきたい。

農具川は県で改修工事を行っている。建設事務所でも農具川の自然植生を大事にし、親水公園として改修するように考えている。「農具川のホタルを復活する会」等ボランティアの皆さんの協力もあり、自然に馴染んだ河川整備が進められている。

出席者

駅前にあった丸福さんの店舗が閉店してしまい淋しい状況になっている。後の対策はどうか。

市長回答

駅に降り立ったとき、「大町らしさ」が感じられない。

対策としては

- ・山が見えない、見えるようにしたらどうか。
- ・大町にちなんだ音楽を流す。等

商店街の方も観光PRに努めていただいている。駅から足をのばして散策できるようなまちづくりを工夫したい。

出席者

本通りの花壇や花鉢が置かれているが、肥料が足りない等管理不足が感じられるが対応はどうか。

市長回答

仁科町商店街等で花を飾る取組みを実施している。また駅前にもボランティア活動で花壇の整備を行っている。しかし、水や肥料の管理、美観を保つのは大変なことである。市でも気を配って行きたい。また、管理が行き届いていないと気がついた時は、声を掛け合っていただきたい。コミュニケーションにもつながる。

出席者

少子高齢化の時代、安心して子どもを生み育てるような対策を講じなければならない。母子家庭等への手当も削られていると聞いたが逆効果ではないか。

市長回答

児童手当は充実してきている。医療費も就学前は無料にし、負担軽減を図っており、国・県に制度の充実を要望していく。

人口は減少に転じている。高齢化が進み子どもが少なくなりバランスが取れていない。「結婚しない」「子どもを作らない」人が増えている。

要因は、

- ・結婚適齢期という固定観念が薄れている。
- ・世の中が便利になり、生活上不便が感じられなくなってきたため結婚しない。
- ・将来に対する不安から結婚しない。

等があげられる。

後者は政策上の問題。明るい将来が持てず、子どもを育てる環境でない。政策的に解決し、子どもを生み育てる環境、安心安全な社会作りを進めていきたい。

出席者

王子神社に関わる舞台を大町市の有形文化財としていただきたい。また改修に必要な助成についても、松本市を参考にいただき、改修助成を要望したい。

松本市深志神社の舞台は、「松本城下町の舞台」として平成13年に松本市重要有形文化財に指定されており、松本市は年に2台ずつ改修をおこなっている。

市長回答

王子神社の夏の祭典は大町市でも最大のイベントである。掘六日町の舞台は皆さんに親しまれている存在。保存については大勢の皆様にご尽力いただいている。大黒町の舞台は立川流の彫り物が評価され、県宝に指定されており、修繕の場合は県より費用が助成される。他の舞台は文化財に指定されておらず、助成制度はない。保存していくためには適切な維持管理が必要となり、対策を考えていかなければならない。舞台は由緒・来歴がさまざま文化財に指定するのは難しいと聞いているが、方途をさぐっていききたい。

出席者

これからの若者の働く場の創造をお願いしたい。安易な企業誘致でなく、この大町にふさわしい産業を創造することが必要だと思う。

市長回答

大町へ帰ってきたくても就職口がなく、遠くで就職しているケースが多い。市内で頑張っている企業に業績を拡大していただくことも大事。製造業を中心に市との意見交換をしており、その中で市道改良の要望があり、補正対応で2箇所改良工事をする事となった。

東洋紡跡地については全体の約4分の3が残っている。今年の7月に新たな企業誘致のパンフレットを作成した。土地は東洋紡所有だが、市と協力して企業誘致を進めていく約束になっており、取り組みを強めていく。東洋紡より用地をご寄付いただき、駅前若宮線の拡張工事を行っている。企業誘致にも役立つのではないかと期待している。企業誘致のポイントは企業に大町を好きになって来てもらうこと。大町にふさわしい企業の誘致に取り組んでいきたい。

出席者

当市の山岳文化に根ざした衣・食・住、その他多くの文化がある。この地の特質を活かした都市づくりができればと切望する。

市長回答

平成14年に山岳文化都市宣言をしている。市立山岳博物館での、ライチョウ会議は専門家の中で有名。「山と博物館」は専門的な広報誌として発行している。

「食」の分野では、信州サーモンが普及している。

「住」の分野では、薪ストーブの良さが見直されてきている。豊富な広葉樹も薪として利用されている。針葉樹の間伐材を利用し、ペレットストーブの普及にも力を入れている。山岳地帯ならではの特色を出すよう市でも進めていきたい。

国営公園の大町・松川地区は平成21年春季オープンする。気軽に里山を体験してもらう構想。国営公園から観光客を誘導していく受け皿の整備が大事。市の国営公園地域振興協議会を設け、検討いただいている。

司会者

再確認するが、舞台については市の文化財の指定するつもりはないということなのか。

市長回答

市の文化財指定は教育委員会の所管事項である。教育委員会の公式見解は聞いてきていないが、文化財に指定することには問題があるということだと思う。

出席者

前市長のときに、王子神社として2回文化財指定の陳情をした経過があるが回答がない。文化財に指定する価値は無いのか。

市長回答

できる、できないは明言できない。文化財の指定は、文化財審議会で審議し決定するもの。過去に陳情されているということなので、持ち帰り経過を確認しお答えする。

出席者

議会では継続審議になっていると聞いている。

出席者

舞台については、堅苦しい文化財としてではなく、そこに住む人々にとっては大事な文化財であるということを頭に入れておいていただきたい。

市長回答

文化財でないといっているわけではない。公的な助成を受けるには位置づけが必要であるという意味である。

出席者

松本市で舞台はすべてが市の文化財に指定されている。その舞台の作成時期は

明治時代だと聞いている。堀六日町の舞台は少なくとも江戸の後期に建造されたものだといわれている。文化財の選定基準は、松本市と大町市とでは違うのか。

市長回答

それぞれの市が定めたものであるので、基準は違う。

出席者

舞台を蔵に仕舞っておくだけではもったいない。展示して飛騨高山のように観光に活かせないものか。

市長回答

麻倉を利用して常時舞台を展示できるように工夫できないかとのご意見もいただいている。

出席者

町内の散策、自然の恵みの観光も良いが、人の手の加わった観光は大町市には少ない。

市長回答

第4次総合計画に、大町市の将来像「美しく豊かな自然 文化の風薫る きらり輝く おおまち」と謳ってある。今を生きる文化と歴史ある文化。どちらも大切にしていきたい。

出席者

まつりは人の手を加えて創り上げられた、価値ある文化だと思う。

市長回答

天から恵まれたもの、先人がつくり育まれた文化、両方大事にしていきたい。

出席者

観光に役立ててもらいたい。

出席者

舞台会館の建設も陳情している。観光客に街を歩いてもらいたい。塩の道博物館～塩の小道～市野屋さんの酒蔵～麻倉等を観光コースにし、麻倉には舞台を常時展示し、お囃子の演奏等してはどうか。陳情しているが回答がない。

市長回答

財政的に麻倉を改築する、また舞台収蔵庫を建築するのはとても難しい。

出席者

市が無理なら国の制度があるので、国に要望してはどうか。

市長回答

国の補助を受けるには、まず市費で事業費の予算措置をする必要がある。財政負担もあり、慎重に考えなければならない。既存のやぶさめ会館にも観光客を呼び込む仕掛けを考える。

出席者

道の駅の実現の可能性はあるのか。

市長回答

3年前から研究会を持ち、検討している。道の駅は駐車場、トイレは道路管理者が設置する。ところがレストランや物産販売等の営業施設は地域の民間資本で設置するのが原則である。今のところ民間の参入希望者がいない。場所も検討しいくつか候補地がある。

- ・ ゆーぶる木崎湖を充実・拡大させる。
- ・ 大町市南部に建設してはどうか。
- ・ 訪れる方に一番印象的な場所(例えば大原町のオリンピック道路のクランクのところ、その辺りは山の眺望がすばらしい。)
- ・ 東洋紡の跡地利用で、道の駅ではなく「まちの駅」はどうか。(駅前問題も解消できる)

など様々な意見があるが、具体的な事業の担い手が固まっていない段階で、まだまだ時間がかかると思う。道の駅は大町の良さを印象づけるには効果的な手段であり、実現に向けて努力していきたい。

出席者

東洋紡の跡地はどうなっているのか。

市長回答

跡地については産業用地として工場等の立地がふさわしい土地であるが、計画変更の手続きをして商業施設を建設することも可能である。「まちの駅」やアウトレットモールのような商業施設を誘致してはどうかとのご意見もあるが、進出していただける

企業がないのが現状である。

出席者

誘致する企業側のメリットはどのようなものがあるか。

市長回答

優遇措置として、3億円の助成、さらに3年間は固定資産税の免除制度がある。県の助成措置としても10億円の助成があり、合わせて13億円の助成が受けられる。どこの市町村でも同様の助成措置があり、誘致合戦といえる。

企業誘致は 高速からのアクセス・便のよさ 市長あるいは市民の熱意 優遇措置等がポイントといわれている。

出席者

霊松時から見下ろすと寂しい街。建物が少ない。

市長回答

活力が生まれるような政策が必要。高速道路に直接アクセスできないのは県下では大町市だけである。高規格道路の着工を切望しており、先週も国土交通大臣に陳情している。

出席者

車の往来も少ない。

市長回答

道路が郊外を通過しており、街中は通らない。渋滞は回避されるが逆に閑散としている。街中に回遊する観光スポットを考えていきたい。

出席者

「58分の散歩道」という県の観光パンフレットがある。歩いてみると市民でも知らないスポットがあるが、市民の中には浸透していない。

市長回答

長野市松代では「エコール・ド・まつしろ」の取り組みで、観光客が3倍に増えていると聞いた。大町市の観光客は年間280万人いる。街中へ足を伸ばしてもらうよう努力していきたい。「また来てみたい」「ホッとする」等付加価値をつける工夫が必要。観光ボランティアの活動も大切。

出席者

散策マップを駅前に出してはどうか。

市長回答

皆さんのご意見を聞き、研究する。

出席者

駅前に大町らしさが足りない。もっとアピールが必要。

市長回答

国営公園の開園で一定の観光客が期待できる。その観光客の足を市内へ伸ばすことが肝心。東へ向かえば、「ラ・カスタ」「国宝仁科神明宮」。北へ向かえば「エネルギー博物館」「テブコ館」等がある。温泉郷では付近の森林を整備し、散策できるよう工夫している。面的な受け皿の整備が必要である。

大町市の美しい山は天からの恵み、ダムは関西電力によるもの、工場の立地は豊富な水力・電力のお陰であり、苦勞して築き上げたものは多くない。自分たちの力で踏ん張る努力が必要である。

出席者

県では森林税の導入を検討している。森林の保護は水資源の確保につながり、下流の都市圏ではその恩恵を受けている。下流圏の住民に水利用税を賦課してはどうか。実際、木曾地域では愛知県からの費用で森林整備を行っている聞いた。

市長回答

森林整備は水源の確保、景観形成、有害鳥獣の被害軽減、また雇用の確保にもつながる。大滝村のダムは愛知県の投資により建造されたもの。また矢作川の上流の浪合村には、流域市町村が投資し整備を行っている。上流と下流の役割分担が為されている。森林税の導入は下流圏が恩恵を受けることになるので、国税にしてもらい、全国的に下流圏から上流圏へと、資金が税として移転するような仕組みを検討してもらいたいと要望している。

4. 閉会 【21:05】